

## 欠席の専門委員からの意見等

### 吉成専門委員

厚労省からの DON の基準値設定に関する諮問に対し、アセチル化体と配糖体も評価に含めるかどうかについて。

アセチル化体は動物実験において DON と同様の毒性を示す結果が複数得られている。しかし、資料 4 にあるように日本に流通する小麦におけるアセチル化体の平均濃度は DON と比較して非常に低く、また私がこれまで 8 年間汚染実態調査を行ってきた限りでは、アセチル化体の DON に対する割合が極端に高い検体というのも見ることがない。よって DON の基準値設定を考える際には考慮に入れる必要はないと考える。

配糖体はそれ自体の毒性は DON と比較して非常に低く、また動物実験の結果、バイオアベイラビリティは DON より低いという報告もある。そのため DON の基準値設定の際の評価に配糖体を含める必要性の根拠は現時点ではあまりない。ただ、小麦中の配糖体の濃度は DON のおおよそ 2 割で、アセチル化体と比較すると多いため、今後情報を収集し、リスク評価を行う必要はあると考える。

以上